

■■■ シドニーのマイノリティ高齢者福祉施設視察報告 ■■■

10月13日(日)から18日(木)までKFCは「シドニーマイノリティ高齢者福祉施設視察」へ4名で行って来ました。関西空港から直行便がないため広州で乗り換えて、シドニーに向かいました。乗り換え時間を除いても合計14時間ほどの長いフライトでした。

14日の朝にシドニーに到着し、午後から「自治体国際化協会シドニー事務所」で「オーストラリアの多文化主義政策」の話の伺いました。これによると、オーストラリアは毎年約12万人の新移民を受け入れています。在オーストラリア外国人の出生国では、中国が3番目で39万人、ベトナムは5番目で21万人、韓国は12番目で約10万人、ちなみに日本は26番目で5万人でした。

15日の午前はAustralian Chinese Community Association (ACCA)が運営しているデイサービスの施設の見学でした。ここでとても興味深かったことはいくつかのゲーム類でした。ビンゴゲームは数字の代わりに麻雀の模様や果物の柄でしていました。ACCAは今年で39年目に入り、古い団体です。主に居宅サービス・デイサービス・認知症デイケア・配食サービス・学校の運営をしています。午後はChinese Australian Services Society Limited (CASS)を訪問しました。活動内容は幅広くデイサービスからホームケア、介護予防活動、新移民へのサービス、幼稚園の運営、便利支援サービスなどです。今、力を入れているのは老人ホームの建設費の資金集めだそうです。8月から隣に土地を購入し、老人ホームの工事中でした。

16日の午前にIndo-Chinese Eldetly Hostelに向かいました。ここは老人ホームで、入居者の国籍は中国、ベトナム・ラオス・カンボジアなどです。こんな多国籍なら何語でやり取りをして、どんな料理を出すのか、文化・習慣の面はどう配慮してるかととても気になったので聞いてみたら「国籍がさまざまだが、みな中国系なのでほとんど中国風で対応するそうです。午後はLansdowne Aged Care Facilityに伺いました。ここは多国籍の老人ホームです。入居者は国によってA・B・C・D棟に分けられ、多国籍のスタッフを雇って、それぞれの国の文化・習慣の面では十分に配慮して運営しているそうです。B棟ではベトナム人高齢者が多く入居していて、音楽・飾りなどでベトナム的な文化を感じました。国別で単独にイベントを行うこともあれば、合同で行うイベントもあるそうです。

次の訪問はMulticultural Commuinty Care Service (MCCS)です。MCCSは主に訪問介護員を派遣する団体です。在宅介護に特に力を入れるオーストラリアでは在宅介護は9割もあるそうです。MCCSは250名もスタッフがいて、たくさんの多国籍の介護職員で多文化・多言語に対応し、中国・ベトナムはもちろんのことアラビア語からアッシリア語、クロアチア語、ヒンディ語、セルビア語、ティモール語まで対応しています。

17日はAustralian Nursing Home Foundationを訪問しました。ここも中国系の高齢者の老人ホームで、別館ではデイサービスもしていました。デイサービスでは曜日で国籍を分け、火曜日は韓国、木曜日はベトナム、他の曜日は中国だそうです。国別に分けたことで、食事・出し物・文化的なサービスが細かく提供することができます。当日はベトナム人高齢者が12人いて、食卓を囲み楽しそうでした。

今回の視察全体で感じたことは、オーストラリアはさすが移住民国家で、施策がとても進んでいて現実的に自立させていたことです。新移民は510時間(英語の基盤がない者は100~200時間を追加可能)の英語学習を無料で受けられ、そのおかげでみな英語でやり取りができています。介護職員は全て英語で記録を書くことになっています。シドニーで出会った若者から60代の年寄りまで英語がべらべらでした。語学をしっかりサポートし、働いて税金を納めてもらうという考え

方はとても合理的で羨ましいかぎりです。

オーストラリアの介護の分野は日本とよく似ていますが、異なる国籍・文化に対する配慮を十分に考えた介護でした。

今回の視察は、KFCのこれからの介護事業にヒントをたくさん得たし、訪問した団体の中にはKFCの未来像が見えました。貴重な体験をさせて頂いたことに感謝しています。（ハティ タン ガ）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆茶道体験

KFC事務所で茶道体験をさせてもらえました。私は72歳になる日本語ボランティア男子ですが、いままで茶道体験をしたことがありませんでした。一度体験したかったのです。日本語支援をしてやっている外国人に、日本伝統文化の一つとして「茶道」を紹介したいと思うことは、授業時間中に時々あることです。

10月30日水曜日午前11時に体験会が始まりました。長机に赤い大きな布をかけて、その上に茶会用の花(私は初見の花で、名前は覚えられませんでした)と柿の絵の色紙を飾り、茶室の雰囲気演出されていました。

その茶室の主人役は表千家の櫻井先生(年配の女性)で、和服をきれいに着こなしていらっしゃいました。櫻井先生の指示に従ってお茶を点てたりお菓子を出したりする役目の女性お二方も、茶室にふさわしい落ち着いた服装です。お茶を頂くわれわれ側の服装もしかるべくあれば一層よかったです。

二・三人の客をもてなすという形式で体験会は進みました。要所で櫻井先生が所作の解説をしてくださいます。最初はお菓子を頂きます。お菓子はもみじという名の和菓子でした。お菓子を出してくださった方に一礼して、頂きます。

お茶を点てる担当の方は、長机にあらかじめ置いた茶道の道具の前に腰を掛け、客の前で茶碗を拭き、そこへ抹茶を入れ、湯を注ぎ、茶筌でかき回します。客は、出された抹茶を前にして一礼し、まだ飲んでいない隣席の客に茶碗を半ば差し出し「お先に頂きます」と形式的にあいさつする。隣席の客がすでに飲んだ客の場合は、「もう一杯いかがですか」と問い、「結構です」の応答を受けて「では、頂戴いたします」とあいさつする。飲む前に茶碗の正面を反時計方向に90度回す。そして飲む。飲み終わったら茶碗をいろいろな方向から鑑賞し、感想を述べる。同席の客が全員飲み終わったら、お茶を点ててくださった方に、同時にお礼のあいさつをする。

茶席では会話が禁じられていることはない。ただし、政治の話・お金の話などはだめと櫻井先生は添えられました。

この茶道体験では、お茶を点てながらお客に茶道についてのお話をされる櫻井先生がとても素敵で、充実した体験をさせていただきました。（ニュース係 操田 誠）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆子どもが喜ぶお弁当づくり講座

外国人お母さんのためのお弁当の作り方についての講座が10月6日に開かれました。主催はKFCで講師はたなかまみ先生でした。参加者はベトナム人、中国人、ウクライナ人、子どもさん、通訳さん、スタッフ等で20数名でした。

まず、たなか先生が丁寧に説明しながら料理を作って見せてくれました。通訳さんと共に皆さん熱心に質問もありました。

庖丁で足の切れ目を入れたかわいいタコのウインナー。少しずつまきながら重ねて作るだし巻

きたまご。きゅうりの入ったちくわ。ちくわは日本独特の食材ですが似た様なものはベトナムにもあるとの事。豚のしょうが焼きやプチトマトとブロッコリーの野菜。赤、黄色、緑、色とりどりで美味しそう。

最後に、おにぎりは目と眉毛と髪の毛は海苔、ほっぺたと鼻と口はウインナーで顔を作りました。アンパンマンは親も子も大喜びで食べるのがもったいないと言っていました。

その後、グループに分かれて、わいわいがやがや楽しく皆さんで作って試食しました。

先生からお弁当の注意点も教えて頂きました。なるべく火を通したものを入れる。よく冷めてからお弁当箱に詰める。色取りよく綺麗に並べる等でした。

中国やウクライナは日本と同じく学校で給食が出るそうです。ベトナムでは子どもたちは毎日お弁当を持って学校に行くとのことですが、もっと簡単なものだと言っていました。

参加された皆さんは簡単で、綺麗で、可愛い日本のお弁当が気に入ったようでした。是非、子どもさんに作ってあげてみてほしいです。お弁当も日本の一つの文化ですので、外国の方に紹介することも良いことです。また逆に、ベトナムや中国やウクライナの家料理を紹介していただける機会があればうれしいと思います。(ニュース係 吉村 晴夫)

◆進路相談会

10月6日(日)13時から、お弁当教室に引き続いて地域人材支援センター(旧二葉小学校)で進路相談会がありました。長田区内の公立中学校に勤務されている韓裕治先生をお迎えして、高校入試の制度や費用についてお話していただきました。

今回の進路相談会は、学習支援教室にも関わって下さっているカン先生と徐先生によるベトナム語と中国語の通訳があり、参加者も安心して具体的な相談ができたようです。日頃KFCの教室で勉強している子どもの中から高校受験を控えている中学3年生とその保護者を中心に17名の参加がありました。

推薦入試、一般入試、専願、併願など基本的な用語の確認に加えて、英語検定や漢字検定の取得といった受験までの具体的な戦略についても質問がありました。韓先生は膨大な受験情報の中からの的確なアドバイスをし、親身になって相談に乗って下さいました。

参加者の中学生からは「受験まで不安はあるが、分からなかったことが質問できて安心したし、よかった。」という感想がありました。家庭の経済状況や、高校卒業後の進路も見据えて、受験校を選択する必要があるため、個別具体的な相談や話し合いを必要としている生徒が多くいます。加えて、阪神間の高校受験の制度も目まぐるしく変わっているという状況もあります。ラストスパートのこの時期だからこそ、入試に関して現実的な話ができるということが大切だと改めて感じました。参加した中学生全員が、志望する高校合格への道を走りきってほしいと思います。がんばれ、中学3年生!(薮田 直子)

◆防災訓練

子ども学習支援教室では、10月2日(水)に防災訓練を実施しました。地震によりビルから火災が発生したという想定で、1階まで階段を使いビルの外へ避難する訓練です。

机の下にもぐり、身を守る体勢を訓練した後は、ハンカチや上着で鼻と口を押さえながら全員外へ。5階から1階まで初めて階段を使ったという参加者もあり、良い機会となりました。1階の広場に集合し、高学年、中学3年生が中心となり人数を確認しました。5分ほどで全員がスムーズに避難できるということが確認できました。

集合した後は、神戸大学大学院で地域防災について研究されており、学習支援ボランティアでもある赤嶺佑一さんから避難訓練の講評がありました。

お話では、小中学生が避難する姿が地域のおとなたちの避難を促したという東日本大震災の事例が紹介されました。小学生も、中学生も自分の身をしっかりと守るということをまず第一に考えて行動して欲しいと思います。自助が共助に。自分たちが避難する後ろ姿が、長田の地域の人を守る力をもっているということも再認識できたのではないのでしょうか。みんな真剣に赤嶺さんのお話に聞き入っていました。私たちも日ごろの防災について見直していきましょう。(藪田 直子)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆帰国者たちへの日本語学習支援

今年の6月から新長田帰国者交流会において日本語学習支援に携わることになりました。5か月間帰国者たちとの交流を通して、帰国者たちに対するいろいろな面での理解が深くなったのではないかと思います。

今までは個人レベルでの交流に過ぎなかったので、帰国者たちの社会的な面における理解はあまりなかったことに気付きました。

毎週火曜日の帰国者たちの日本語学習会・交流会には、多い時には60人以上の方が参加しています。ほとんどの方が退職して第二の人生を楽しんでいます。中には健康上のことでやむを得ず第一線から退き、生活保護を受けながら生活している方もいます。

帰国者の中には、中国にいる時も来日してからも日本語をじっくり勉強する機会に恵まれず、言葉の壁を感じながら生活している方が多いです。

毎週一度の日本語学習会・交流会は帰国者たちにとっては日本語を学べる貴重な機会でもあり、日頃会えない同じ立場の帰国者の友達に会える楽しい交流の場でもあります。

10月15日には、新長田勤労市民センターにて、午後1時から『KFC帰国者新長田交流会 特別行事』として文化教室を開催しました。今回の趣旨は、華道を通して日中両国の文化を楽しむことでした。

当日は、華道を楽しむグループと中国の将棋、トランプなどを楽しむグループと二つのグループに分かれて一時間ぐらい楽しい時間を過ごしました。

華道の先生には三枝先生を招いて、基本から丁寧に教えてもらいました。参加者の皆さんは、それぞれ自分の作った作品を写メールに収めたりして体験の時間を存分に楽しんできました。最後には各自に自分の作品を持って帰ってもらいました。

また、華道の三枝先生が参加者の皆さんの為に特別にプレゼントも用意してくれましたので、後半のゲーム等の時間に皆さんはプレゼントをもらい、更に盛り上がりました。

日本語学習支援のボランティアの堀田さんが手品等を披露してくれました。特に堀田さんの手品は地域でもすごく評判が高く、今回の参加者たちもその腕の高さにとても感心し、楽しんでいました。

また全員参加型の『じゃんけん遊び』を通して、皆さんには少しでも日本の昔からの手遊びを体験してもらえたのではないかと思います。

日頃体験する機会の少ない文化交流の時間は、帰国者の皆さんには日本の文化を理解する貴重な時間だったのではないかと思います。交流会を終えて、今回の交流会を企画してもらって本当に良かったなと思いました。

帰国者たちへの日本語学習支援において、単なる言葉の学習だけでなく、日本語の学習と同時に日本の文化も理解してもらうことがとても必要であることを今回の交流会を通して改めて感じました。

これからも暫くは帰国者たちの日本語学習支援に携わらせてもらいますが、支援する側として

より良い支援を提供するためには、まずは支援を受ける側の立場をもっと理解し、その立場に立って物事を考えることから始まるべきではないかと思ひます。それで初めて真の良き方法と結果が生まれるのではないかと思ひます。（KFC日本語コーディネーター 福田 淑慧）

◆映画鑑賞会～『卞拉是条狗』（邦題：『わが家の犬は世界一』）

11月5日（火）13時～15時、中国帰国者交流会では映画鑑賞会～『卞拉是条狗』（邦題：『わが家の犬は世界一』）が開催されました。会場は神戸映画資料館（長田区腕塚町：アスタくにつか1番館北棟2F）のミニシアターです。

『卞拉是条狗』は現代中国の北京を舞台に、映画『生きる』でカンヌ国際映画祭主演男優賞を受賞した葛優と大陸トップ女優の丁嘉麗が主演し、中国の第六世代監督の代表と言われる路学長が監督したヒット映画（2003年2月）です。映画の筋立ては、公安局で登録をしていない主人公の愛犬（中国では犬を飼うのに免許制で高額な登録料が必要）が警察に捕まってしまう、貧乏な主人公があらゆる手を使って愛犬を取り戻そうと奔走する、というものです。愛犬を取り戻すためにコネ・裏取引・替え玉と、主人公が悪戦苦闘する場面や、口うるさい妻や反抗的な息子とのやりとりの場面等、上映中、会場からはあちこちで笑い声が上がっていました。

鑑賞後、帰国者の方からは「面白かった、また見たい。」「もう少しきれいな映像の映画も見たい。」等の感想が聞かれました。また中国の事情に詳しいスタッフからは「経済急成長直前の90年代の北京の社会情勢（大気汚染・高層ビルと民家の混在・住宅事情など）や、市民の価値観の揺れ（食用犬からペット犬へ、犬の購入価格の17倍近い登録料に対する困惑など）を、80年代の工場の様子や2000年代初頭の状況も盛り込みながら、ユーモアのあるストーリーで上手く描いておりヒットしたのがよくわかった。」との感想がありました。

最後になりましたが、上映と鑑賞に際し、全面的なご協力とご尽力をいただきました神戸映画資料館の皆様へ心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。（インターン 吉本 直子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆センイルチュッカハンミダ！！

ハナの会では毎月、利用者様のお誕生日会が行われます。大体月に3～4名お誕生日を迎えられる利用者様がおられます。お誕生日会と言ってもそれほど盛大ではなく、利用者様、スタッフ全員で♪ハッピーバースデートゥユー（センイルチュッカハンミダ）を合唱し、スタッフ鮑の手作りケーキを前に、誕生日を迎えられる利用者様が記念写真を撮ります。利用者様は視線が集まるので最初は恥ずかしそうにされますが、自然と笑顔になります。写真撮影が終わったあと、利用者様やスタッフから、お誕生日を迎えられる利用者様に様々な質問が飛びます。「何歳になりましたか～？」「どんな1年にしたいですか～？」質問は色々です。歳を忘れている利用者様や、わざと若い年齢で答える利用者様もおられ、皆様爆笑されています。その後は美味しいケーキを食べながら談笑が始まります。

今、日本の風潮は女性に年齢を聞くななんて失礼！という感じですね。しかし、歳はみんな平等にとるものです。その歳、その歳の美しさがあり、歳の分だけ色々な経験をされ、積み重ねられた顔や手のしわは、その人にとっては嫌なものかもしれませんが、私から見ると、とても味があって素敵で尊敬できるものです。デイサービスに勤務し、色々な利用者様にお話を聞かせていただき、その方の背景を知っていくにつれ、どんどん尊敬の念が深まっています。きっと利用者様と自分の祖父母を重ねてしまうからだと思います。

利用者様はそれぞれ、お誕生日の過ごし方が違うと思ひます。でもハナの会では、どの利用者様も同じように、お誕生日に一つ歳を重ねた事をみんなでお祝いし、これからの1年も健康で楽しく

過ごせるお手伝いをしていきたいと考えています。（林 夏美）

◆小規模多機能型居宅介護 ハナがオープン！

10月1日オープンが決まってから、準備を進めて来ましたが、『小規模多機能』という言葉に馴染みが薄くイメージももう一つという中で、利用者確保の手ごたえが見えません。

9月28日に初めてスタッフの打ち合わせ会議をしました。この時点で利用者は2名でどちらも中国残留邦人帰国者の方です。

サービス内容は週1回のデイサービスです。

設備も完全ではない中10月を迎えました。

今まで利用していたデイサービス ハナに比べ、何とも淋しい数なので、デイサービスを利用することに躊躇すると言った場面もありました。

スタッフもグループホームの各勤務帯への出向、デイサービス ハナへと勤務をしながらの中、週1回の打ち合わせ会議を設けて準備を進めて来ましたが、全員が揃うことはできません。

ベッドが入り、棚が設置され車椅子が搬送され1階は随分と狭くなりました。

11月の契約者は6名になりました。週2回のお泊りに毎日のデイサービスと週2回の訪問介護とサービスの提供が広がりました。課題は送迎の運転手の確保です。

表面は凧のごとしですが、水中では充実した小規模多機能をめざし、スタッフの知恵や創意を生かして日々を積み重ねています。

『上を向いて歩こう』の替え歌

2番

今日も楽しく ハナに来ました

みんなの笑顔が 見れる事

嬉しくて 待ち遠しくて

ひとりぼっちじゃあない

3番

上を向いて 帰ろう

次また 会える時まで

元気でね 会いましょう

私たちも待っている

毎週 デイの始まりに 帰りにこの歌を歌いながら、1日を終えています。

(山根 香代子)

■■■ 今後の予定 ■■■

■ベトナム人高齢者支援事業

12月5日(木)

於 デイサービスセンターハナの会

12月10日(火) 於 地域人材支援センター

■日本語学習支援者研修会

12月14日(土) 13時半～15時半

青木直子（大阪大学大学院教授）

於 （公財）神戸国際協力交流センター

■まちの文化祭出展（KFC帰国者新長田交流会）

11月24日(日) 於 地域人材支援センター

■歌声日本語教室

（日本語P&デイサービスセンターハナの会）

12月7日(土) 13:00～15:00

1月11日(土) 13:00～15:00

■こうべプレススクール「はいず」

11月30日(土)～2014年3月15日(土) 全11回

於 賀川記念館